令和２年度　校内研究計画

小田原市立下中小学校

研究主題　「学び合い、高め合う子どもの育成」

～　主体的・対話的で深い学びの姿を目指して　～

（国語科・算数科）

１　主題設定の理由

（１）新学習指導要領より

新学習指導要領では、育成することを目指す資質・能力を３つの柱で整理し、それらを育むために子どもたちの**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと**としている。

下中小学校でも平成２９年度より、この視点を意識して研究をしてきた。今年度も研究に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を行いながら、資質・能力、生涯にわたって進んで学び続ける力の育成を目指していきたい。

（２）本校の「学校教育目標」および「めざす子ども像」から

学校教育目標　　『進んで学ぶ子　心豊かな子　たくましい子』
～新しい時代に向けた「生きる力」を育てる教育の実践～

めざす子ども像

進んで学ぶ子　…**目標を持って自ら学ぶ子・基礎、基本を身につける子・よく聞き考え表現できる子**
心豊かな子　　…あいさつがしっかりできる子・思いやりや感謝する心を持つ子
豊かな交流に進んで取り組む子・地域の良さに誇りがもてる子
たくましいく子…心身を鍛え、チャレンジする子・健康に関心を持ち実践する子
危険を意識し回避ができる子

主体的な学びの具体的な取り組み

・**新学習指導要領による教育課程の実施**
・**主体的・対話的で深い学びの授業**
・**校内研究と自己研鑽の充実**
・家庭学習の定着に向けた家庭との連携

（３）研究の経過

本校では平成１８年度から「学び合い、高め合う子どもの育成」を目指して校内研究に取り組んできた。これまでの研究の経過は以下のような流れになっている。

＜研究経過＞

平成１８年度～平成２３年度	（５年間）	国語科を通して
平成２４年度～平成２７年度	（４年間）	算数科を通して
平成２８年度	（１年間）	理科・社会科・生活科を通して
平成２９年度～	（３年間）	理科・生活科を通して

平成２８年度より、それまでの算数科の研究を通してある程度確立してきた学び合いの姿を土台とし、他教科に活かすことができないかと考え、研究の間口を理科・社会科・生活科へとし、学ぶことが楽しいと思えるような授業作りを目指して研究を進めた。しかし、子どもたちの意欲の高まりを感じることはできたものの、焦点化されず深まりのある研究にすることができなかった。

そのため、平成２９年度は教科を理科・生活科にし、学習内容と日常生活を関連させた授業作りを目指して研究を進めた。それにより主体的に問題解決しようとする姿がたくさん見られるようになった。そして、平成３０年度では、自分たちで問題解決していく授業を目指して研究を進め、単元構想を作ることで思考の流れに合った学びの姿が見られた。

さらに、令和元年度は、子どもたちの疑問や試行錯誤する場や学びを働かそうとする姿を想像しながら前後の単元のつながりを意識して単元構想を作っていく研究を進めた。そのことにより、目的・相手意識をもって、「何をするのか」、「何のために行うのか」、「どのように行うのか」といった今まで身に付けてきた理科や生活科の学びを発揮しながら主体的に取り組む姿が見られるようになった。ただ、授業の中でなかなか高め合う姿を見られなく、高め合う姿を具体的にし、共通理解を持って研究を進めていく必要性が明らかになった。それを踏まえつつ、同じ土台で系統立てて研究を進めていくことや、新学習指導要領の実施を踏まえ教科は国語科と算数科にすることにした。

２　今年度の研究の方向性

これまでの研究の流れ、そして昨年度の反省をもとに今年度の研究を次のように計画した。

＜下中小学校学校教育目標＞

◎進んで学ぶ子・心豊かな子・たくましい子

～新しい時代に向けた「生きる力」を育てる教育の実践～

研究主題

「学び合い、高め合う子の育成」

～　主体的・対話的で深い学びの姿を目指して　～

＜着地点＞

令和４年度	**①　主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の明確化。** **②　学び合い、高め合う子の育成をめざす単元・授業作りと実践**
令和３年度	**①　主体的・対話的で深い学びを意識した学び合い、高め合う子の姿の見直し。（できる範囲で）** **②　学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりと実践**
令和２年度	**①　主体的・対話的で深い学びを意識して、学び合い、高め合う子の姿を設定。** **②　学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりガイドラインの作成**

①学び合い、高め合う子の姿の明確化と共有化

発達段階に応じて学び合い、高め合う姿を設定し、その実現へ向けて手立てを講じつつ、実践する。協議の都度、見直しをする。

②単元づくりガイドラインの作成

興味・関心を高める導入、学びを働かそうとする姿や学び合い高め合う姿が見られる流れ、学びの実感のもてるまとめ・振り返りなど、協議したことをもとに集約していく。

＜３年間の重点＞「学び合い、高め合う子の育成を目指した授業作り」（国語科・算数科）

①　「学び合い、高め合う子」の姿の明確化を図る。（日々の授業・校内研）

②　学び合い、高め合う子の姿を意識した単元・授業作りとその共有化。

・これまでの研究の成果（日常生活との関連・問題解決学習・目的意識）を参考に、手立てを模索する。

主体的に学び合う子の育成

〇導入で疑問や考えたいことを話し合い、目的意識をもって学習を行うことは主体的な学びにつながる。

〇単元を貫く学習課題を設定することは、意欲の継続につながる。など（元年度の研究）

確かな学力の育成

〇問題解決学習を繰り返し行うことで、自分なりに実験方法を考えることができるようになった。

〇問題解決学習を繰り返し行うことで進んで調べたり、工夫したりすることができる。など（３０年度の研究）

日常生活の関連

〇理科で学んだことを日常生活と関連させることで、想像する力を育められる。

〇学習内容を日常生活と関連させることで、進んで問題解決に向うことができる。など（２９年度の研究）

学習意欲の向上

〇自分なりの考えがもてるように指導することで、分かった喜びから学習意欲を高められる。

〇単元を貫く課題を設定することで、問題解決に向うことができる。　など　（２８年度の研究）

◎職員研修による個々の授業力向上

〇職員研修の場を生かし、個々の授業力や教師としての資質向上を目指すための基盤作りを行う。

３　具体的な研究内容

（１）学び合い、高め合う子の姿の設定

①昨年度の研究で､高め合う子の姿を具体的にし､共通理解を持って研究を進めていく必要性が明らかになった。そこで、第２回の校内研究で、発達段階を考えながらブロックごとに学び合い、高め合う姿を検討していきたい。昨年度考えた学び合う姿を参考にして、ブロックごとに今年度の子どもたちの「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の姿を検討していただきたい。

【昨年度考えたブロックごとの学び合う姿】

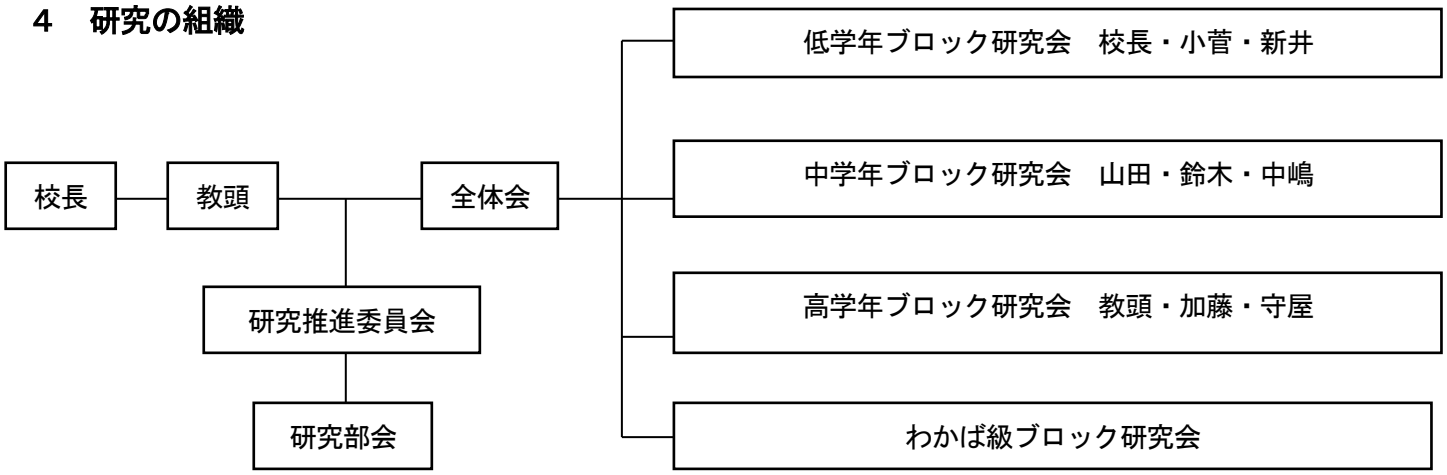
低学年ブロック	・友だちと話そうとしたり聞こうとしたりする子 ・伝え合ったり、話し合ったりすることで、いろいろなことを考え気づける子
中学年ブロック	・既習学習や生活経験をもとに、予測を立て、実験・観察に取り組もうとする子 ・意見交流をすることで、比べながら自分の考えを広げる子
高学年ブロック	・目的意識をもって実験・観察に取り組み、問題解決をしようとする子 ・意見交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする子
わかばブロック	・自分も他者も認めることのできる子 ・自分から他者と関わろうとする子

②設定した姿は研究していく中でズレが出てきたり､新たな姿が見いだされたりすることが考えられる｡そこで、ブロック研の中で加除修正をしていけるようにしたい。

（２）学び合い、高め合う子の姿を意識した単元づくりと共有化（理論研究中心に）

昨年度まで培ってきた単元構想づくりを国語科・算数科に活かしていく。そのときに、昨年度の研究の中で課題となった「学び合い、高め合う子の姿」を意識して取り組めるようにしたい。また、それぞれ先生方の単元構想をつくった時の意図や願いなどを「単元づくりガイドライン」という形で整理していくことで、共有化できるようにしたい。ガイドラインについては、困ったときの拠り所になるものにできたらと考える。

４　研究の組織



〇研究推進委員会は、校長・教頭・推進委員長（山田）・研究主任（柴田）・研究副主任（阿部）・学年代表で構成していく。

〇研究部会は、推進委員長・研究主任・研究副主任で構成される。